

馬洗川

令和8年1月号 第366号 (R7 No.10) R8.1.9

TEL: 0824-62-2217 FAX: 0824-63-1921

E-mail: tohkaichi-e@school.miyoshi.hiroshima.jp

URL: <http://www.school.miyoshi.hiroshima.jp/elementary/tokaichi/>



新しい年の開幕！3学期がスタート

令和8年、新しい年が始まりました。今年は午年、しかも60年に一度巡ってくる丙午です。ひのえうま「丙」は太陽の光が明るく差し、ものごとが伸びていく様子を表し、「午」はまっすぐに進む力強さを示していると言われています。この「丙午」の年にふさわしく、子どもたちが自分の力をのびのびと發揮し、前へ進んでいく姿を、教職員も温かく支えていきたいと思います。

また、子どもたちの成長は、誰か一人の力だけで育まれるものではありません。日々の学校生活を見守り、励ましてくださる保護者の皆様、地域の皆様とのつながりがあってこそ、子どもたちは安心して学びに向かうことができます。本年も、皆様と力を合わせながら、子どもたちの歩みを後押ししていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

令和8年1月7日 3学期始業式 校長挨拶より

児童の皆さん、今日から3学期がスタートします。

校長先生は、四月の始業式で、みんなが安心して学べる「インクルーシブ」な環境を創りましょと話をしました。「インクルーシブ」とは、全てを包んでいる、という意味です。先生達は、3学期も十日市小学校を、児童の皆さん全員が、これまで以上に、誰一人取り残されることなく、安心して過ごせる、皆さん一人一人を温かく包み込めるような学校にしたいと思っています。

学校は、児童の皆さんが主人公になつて文化を創り、生活する場所です。

安心して過ごすために、こんなことがあればいいと思うなどアイデアがあれば、

先生達に教えてくださいね。

十日市小学校はちょうど3年後の、令和十一年の一月に新しい校舎が完成します。伝統を引き継ぎ、さらに、みんなが笑顔で自分らしく過ごせる、幸せな学校を創りましょう。

3学期は、一年間のまとめの学期になります。今、もつてている力をさらに伸ばし、もう少し頑張らないといけないことにも、チャレンジしていきましょう。

例えば二年生なら「九九を完全に言える」、三年生なら「ローマ字を覚える」、四年生なら「都道府県の場所が分かり、漢字で書ける」など、自分でチャレンジする目標を決めて、計画を立てて取り組みましょう。

小さな努力が集まって大きな成長につながります。努力している自分のこと、友達のことを認め合い、高め合いながら、生活していきましょう。

また、3学期は、四月の新しい出発に向けての準備の学期でもあります。

六年生は、中学校へ向けて、仲間との友情を深めながら、小学校生活のまとめの学期になるように、生活と学習の力を高めていきましょう。

五年生は、最高学年に向けての準備の学期です。自分達が中心になつて五年生「らしさ」を生かして新しい学校を創りましょう。

四年生・三年生・二年生・一年生は、それぞれ学年が上がり、自分のことだけではなく、友達のこと、下級生のこと、学級や学年・学校全体のことを考え、さらに責任とやりのある行動をしましょ。四月には、新しい一年生が入学してきます。

また、3学期は、今の学級で友達や先生と一緒に生活する最後の学期になります。そして、登下校や休憩時間にみんなのお世話をしてくれ、助けてくれた六年生との生活も3学期が最後になります。一緒に過ごした友達や、支えてくれた先生、みんなが楽しく生活できる思い出の多い3学期になるようにしましょ。

みんなが楽しく生活できる思い出の多い3学期になるようにしましょ。

やる気を引き出す言葉がけ「ペップトーク」

冬休み中の子どもたちの生活はいかがだったでしょうか。希望懇談会でも、保護者の方と担任が、子どものやる気を引き出すためにどうしていくか、一緒に考えることができました。子どもたちは「やりたい」「わかりたい」という思いをもっているものの、なかなかやる気が出せないことも多いようです。しかし、「やる気がない人は、やる気をそがれた人」なのかもしれません。周りにいる私たち大人の言葉がけを変えることでやる気を引き出していきたいと思っています。

10月の「みよし結芽人研修」で十日市中学校区の先生達が学んだ「ペップトーク」について紹介します。

ペップトークの4ステップ

1. 受容: 今の気持ちを受け止める
2. 承認: 努力や価値を認める
3. 転換: 前向きな視点に切り替える
4. 激励: 行動を後押しする言葉で締める

家庭や学校では

1. 「緊張してるね。でもここまでよく頑張ってきたよ。」
2. 「失敗は次のチャンスにつながるよ。」
3. 「まずは5分だけやってみようか。」
4. 「あなたならできるよ。応援しているよ。」

「ペップトーク」とは

もともとはアメリカでスポーツの試合前に、監督が選手を励ますために使われた激励のショートスピーチの事です。WBC決勝戦前のロッカールームで、大谷翔平選手が言った「憧れるのをやめましょう。」は、短い時間で、仲間に熱い想いを伝え、全員のやる気を引き出し、見事優勝を手にしました。ペップトークはスポーツから生まれましたが、子育て、家庭で実践できるコミュニケーションの技法です。

子どもが力を發揮するために

- ・子どもは“安心”があると挑戦できる
- ・先生や保護者の一言が、子どもの背中をそっと押す
- ・学校と家庭が同じ方向を向くことで、子どもは大きく伸びる

子育てに“正解”はありません。学校でも担任の先生たちも迷ったり、悩んだりしながら子どもたちに日々接しています。その中で、子どもを思う気持ちがあれば、それが子どもを支える何よりの力になります。

新年を迎え、新たな気持ちで決意している子どもたち。今がチャンスです。学校も家庭も、「温かい言葉」で子どもたちを支えていきましょう。

学校評価保護者アンケート（第2回）のお願い

本校の教育活動について、保護者の皆様からご意見をいただきアンケートを実施します。学校・地域・家庭がともに協力しながら今後の教育活動を進めていきたいと考えておりますので、ご協力をお願いします。評価項目をお読みいただきご回答ください。

1月16日（金）に totoru でアンケートのURLを送信します。お子さんの学年のURLからご回答ください。（回答期日：1月23日）なお、回答は各学年のお子さんごとにご回答ください。

※児童の学年・学級・氏名をご記入ください。 年 組 ()		(4) たいへん そう思う	(3) そう思う	(2) あまり 思わない	(1) 思わない
評 価 項 目					
① わが子は、楽しく学校生活を送っている。					
② わが子は、思いやりのある行動ができている。					
③ わが子は、体を動かすこと（運動）に親しんでいる。					
④ わが子と一緒に、災害時の対処行動について話をしたことがある。					
⑤ 学校（教職員）に、わが子のことで悩んでいることがあれば相談できる。					
⑥ 学校は、教育活動の内容や児童の様子をお便りやホームページ、totoru等で分かりやすく伝えている。					
⑦ 学校は、地域の方と連携し、地域を知る教育活動に積極的に取り組んでいる。					